

八ッ場ダム住民訴訟通信-120

2016年10月8日発行

茨城県議会、八ッ場ダム事業費増額に「不同意」請願を否決。

橋本知事・県議会“あとは野となれ山となれ”。

9月30日、茨城県議会は私たちの「八ッ場ダム基本計画変更(増額)に『不同意』を求め」請願を否決しました。

私たちは、9月5日県議会に請願書を提出(議会事務局受理は9/8)。これに先立つ8月30日、いち早く同意の意向を示した知事はともかく、議会の“知の存在”を祈るように求めました。しかし、紹介議員になられた下記の議員の他は、悲しくもザンネンな方々でした。

※紹介議員：山中たい子、江尻かな、上野高志(いずれも日本共産党、敬称略)

この国は、東日本大震災、福島原発事故、熊本地震、昨今の台風被害と災害が重なり、県内を見れば常総水害の復旧もままならぬ状況にあります。その上2110億円が4600億円、5320億円に跳ね上がり、茨城県負担も100億円→269億円→311億円へと三段跳び。国民であり県民である私たちはどうなるのか。しかし、私たちは主権者です。八ッ場ダム事業の暴走を見つめ対峙する立場から、この度の事態を腑わけしたいと思います。

2004年の事業費増額の際、1都5県の知事は「平成22年度の完成ということが、利水者が八ッ場ダムに参画を判断する一つの材料となっており…」なる意見書を添えました。平成22年(2010年には)判断する一つの材料があった筈です。どうしたのでしょうか。

1都5県の知事の意見書は、上記に続いて「…予定年度における完成を強く要望したい(完成が遅れた場合、ダムの完成時点で、ダム参加が不要になっていることも想定されるため)」と述べ、2010年(平成22年)が最終判断の年、とプレッシャーを掛けているやに見えます。

ならば、利水者＝茨城県が判断する「一つの材料とは何か」。それは、当時のマスタープラン(2001年度策定)における2010年の想定1日最大給水量と実績を比較・検証することをおいて他にないでしょう。下記はその検証になります。

2001年度マスタープラン(MP)の2010年度想定と実績比較(人口:万人)

	年度	人口	給水人口	1日最大給水量	1人1日最大給水量
MP 想定	2010	316.0	297.7	138.3万ト/日	464リットル
実績	2010	296.7	273.4	106.8万ト/日	391リットル
実績との乖離		19.3	24.3	31.5万ト/日	73リットル

ちなみに、人口の差19.3万人は2004年当時の取手市+牛久市+水海道市の人口に相当します。1日最大給水量の差31.5万トンは、八ッ場ダムからの受水量9.4万トンの3.35倍にもなります。これだけの読み違いをしながら、茨城県は「八ッ場ダムは必要」の立場にしがみついたので。これほど奇怪な判断があるのでしょうか。

鼻っ柱は強くともお上に弱い

徳川慶喜以来の水戸の伝統なのかしら。

確かに2004年の意見書には抵抗らしきものが見られました。しかしこ甲斐性の無さには訳がありました。期限を切ったはずの2010年を待たず、国は2008年に2015年へと更なる工期延長を突き付けてきました。ここが正念場でした。しかし県はへなへたと「同意」してしまったのです。県知事も県議会も、関東地整の役人に鼻面を引き回され、誇りも何もかなぐり捨て、ひたすら恭順の意を示したのです。そのため、および腰ながらも示した“伝

家の宝刀”＝利水者としてひとつの判断材料も、錆びだらけの“赤いわし”と化し、それ以降、基本計画変更への同意回答に添付する意見書は、赤錆が飛び散るだけで切れ味ゼロ。国は涼しい顔で受け流しています。

●2008年の「同意」に添えた意見書は以下になります。

1. 早期完成に向けて工期短縮に努めること。
2. 徹底したコスト削減を図り、事業費の圧縮に努めること

●20013年の意見書は・・・以下同文

●そして本年度2016年の同意回答に添えた意見書も・・・以下同文

それぞれ状況は違うのに意見書はまるっきり同じ。こんなことに高い俸給の知事、県議会が苦渋の選択とやらをしているのは「政治ごっこ」でしかありません。呪文のような意見書は“チチンパイパイ コワイノ コワイノ飛んでゆけ”とでも言っているのかしら。

この体たらくの根元は、水戸光圀の「大日本史」に始まり、幕末には尊王攘夷の本家気分であったものが族軍にされ、戊申戦争では徳川慶喜がさっさと逃げ帰りひたすら恭順。これでは水戸が重篤な神経症を患うのは無理からぬことですが、だからと言って県庁が“恭順病”を患っていたのでは県民はたまりません。

しかし、現実には刻々と危機を告げています。当時のマスタープランは2015年度の1日最大給水量の予測もしています。直近の2014年実績で改めて検証してみます。

2001年度マスタープラン(MP)の2015年度想定と実績比較(人口:万人)

	年度	人口	給水人口	1日最大給水量	1人1日最大給水量
MP 想定	2015	321.0	311.7	151.9 万ト/日	487 リットル
実績	2014	291.1	272.6	96.7 万ト/日	354 リットル
実績との乖離		29.9	39.1	55.2 万ト/日	133 リットル

これが今起きている現実です。1日最大給水量の差55.2万トンは156万人分の水量に相当します。ハッ場ダムからの受水量9.4万ト/日の5.9倍もの狂いが生じています。原因はマスタープランが出鱈目で県が無責任なだけ。間もなく責任引取水が爆発します。これは知事と県議会の自爆テロみたいなもの。県人口が激減するのも肯けます。

■第12回ハッ場ダムをストップさせる茨城の会・総会

日時：11月26日(土)午後1時30分 開場1時

場所：取手福祉会館小ホール

講演：嶋津暉之「仮、ハッ場ダムは本当に出来るのか」

繰り返す基本計画の変更。事業費は5320億円で収まるのか。工期は、地すべり対策は大丈夫なのか。膨大な無駄遣いを検証します。

ハッ場ダム裁判報告 1部1000円 送料120円

※同封の郵便振込用紙は、総会のご案内時に会費のお願いで入れるものですが、本のご購入申し込みをお受けすることから同封しました。よろしければ、今期2017年度(2016.10.1～2017.9.30)分会費のお払込も宜しく願います。※同封のちらしもご参照ください。



ハッ場ダムをストップさせる茨城の会 代表：濱田篤信 船津寛
事務局：神原禮二 〒302-0023 取手市白山1-8-5 携帯：090-4527-7768